

令和 2 年 7 月 定 例

教 育 委 員 会 会 議 録

飯舘村教育委員会

令和2年7月 定例飯舘村教育委員会会議録

1 招集日時 令和2年7月28日（金）午後3時00分

2 招集場所 飯舘村役場第1会議室

3 出席委員

教育長	遠藤 哲
教育委員（教育長職務代理者）	佐藤 眞弘
教育委員	菅野 クニ
教育委員	星 弘幸
教育委員	庄司 智美

4 欠席委員 なし

5 説明のため出席した者

教育課長	佐藤 正幸
生涯学習課長	藤井 一彦
指導主事	佐藤 育男

6 開 会 午後3時00分

教育課長 定刻になりましたので、ただいまから令和2年7月定例飯舘村教育委員会を開催いたします。開会は午後3時となります。よろしくお願いします。

7 教育長あいさつ

教育課長 教育長よりあいさつをいただき、その後座長として進行をお願いいたします。

教育長 それでは皆さん改めまして、本日もこういう状況の中、ご出席ありがとうございます。座って挨拶させていただきます。

コロナウイルスに振り回された感のある1学期、無事終了いたしました。1学期中の委員の皆様方のご助言、ご支援に心から感謝いたします。

まずはコロナウイルス関係ですが、昨年の末からの臨時休業に伴い、他の市町村では夏季休業日の短縮だけでは授業時数の確保ができない学校も多くある中、結果的には本村の学校の授業、あるいは学力補充については、現在一歩リードしている状況です。この強みを生かして、先行するのではなく、より丁寧な指導をするように、本日の校長・学園長会議で指示を出したところです。

9年生の修学旅行については、計画どおりに9月29日から2泊3日で実施いたしますが、行先については東京、千葉方面を避け、茨城、栃木方面へ変更して実施する予定です。今後はさらに第2波に備えて、2学期始業日までにタブレット学習の準備やオンライン学習の検討を進めるよう指示をいたしました。

次に、9年生の進路関係ですが、27日、昨日から3者相談が始まって、いよいよ進路指導が具体的に動き出しております。現在の進路指導では『入れる高校』から『入りたい高校』を受験させるということが基本であり、そのためにも早目

の目標設定が大きな内的動機につながります。今回の３者相談でも、自分の将来を見据えて、どの高校のどの学科に行きたいのかを生徒の口から言わせることが大切であるということを校長会でも話したところです。

また、９年生の授業については、県立入試問題の範囲の縮小を受けて、指導計画、具体的に言いますと単元や指導時数等を各教科で柔軟に見直して指導するよう指示を出しました。

最後に、学校給食への村食材の利用についてです。こども園と学校でそれぞれ保護者説明会を開催し、説明とお願いをしました。特に保護者からの意見や要望等もなく、ご理解をいただけたものと思っております。安心安全のための最大限の努力をしながら、計画どおり９月から実施する予定です。委員の皆様方のこれまでのご指導、ご助言に改めて感謝をいたします。

本日は令和３年度から後期課程で使用する教科用図書の採択についてご承認いただく案件もありますので、どうかよろしくお願いいたします。

以上です。

８ 会期の決定及び書記の指名

教育長 それでは、日程第２、会期の決定及び書記の指名であります。会期については本日７月２８日の１日間、書記については佐藤正幸教育課長を指名いたします。異議ございませんでしょうか。

全 員 お願いします。

教育長 ありがとうございます。

９ 令和２年６月定例教育委員会会議録の承認について

教育長 日程第３、令和２年６月定例教育委員会会議録の承認について、事務局お願いします。

教育課長 お手元の定例教育委員会会議録をお開きください。（会議録の内容を説明）

教育長 ６月定例教育委員会会議録についてですが、何かご意見等あればお願いします。会議録については、よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）
では、承認いただきました。ありがとうございました。

１０ 議案第２３号 令和３年度使用教科用図書の採択について

教育長 続きまして日程第４、議案第２３号『令和３年度使用教科用図書の採択について』をお願いします。

教育課長 （資料に基づき説明）

教育長 教科書の採択については、昨年度は小学校の教科書について承認いただきました。今年度も採択地区協議会の委員により採択され、通知がきたところであり。本日皆様に採択をご承認いただいた後に、学校のほうに通知をするということになっております。

４ページ、５ページが令和３年度から使用する中学校の教科用図書、義務教育学校で言いますと後期用ということになります。それから、６ページが、これはもう昨年度承認いただいたものです。それから、７ページから１１ページが、特別

支援学級が使う第9条に規定する教科用図書推薦絵本となっております。一括して何か質問、ご意見等あればお願いします。

よろしいでしょうか。採択ということで異議なければ採択したいと思います。
（「はい」の声あり）

ありがとうございました。では、このとおり採択をして、学校に通知をしたいと思います。

11 諸報告について

教育長 続いて、日程第5、諸報告について。幾つかありますが、一括して説明をお願いします。

教育課長 （資料に基づき説明）

教育長 それでは、日程第5、諸報告についてですが、一つずつ確認していきたいと思っています。まず1番として、主要な行事日程等について。これについて何かございますか。

星委員 ふかや風の子広場オープンが、8月9日に行われますが、この広場の運営はどこの主体なんでしょうか。

教育課長 村づくり推進課企画係が進めております。

教育長 この日、同時に夏祭りがありまして、商工会のイベントや出店販売が道の駅で行われており、そこで後期課程の子どもたちが、去年作った『いいたねちゃんのポーチ』を販売することになっています。

売上げの一部あるいは全部を、ラオスに寄付し、集会所建設費の一部に充てるということです。

その他、行事日程等についてよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

それでは、2番に移ります。

I C T化についての保護者アンケートの結果について、委員の皆様方から意見、要望等あればお願いしたいと思います。

星委員 学校でどの程度のデータ量を使ったクオリティの学習を行うのかを想定したときに、どのくらい費用がかかるのかというところまでまとめてもらえると、いろいろとその先につながるのではないかと思います。

4件インターネットがつかない家庭と、1件データ制限がある家庭だけの対応でいいのかどうかということもありますが、ほかの家庭はデータ制限なく使えるとなれば、この4件分プラス1件に対してデータ通信の端末を貸した場合にどのくらい費用がかかるのかまで、試算して提案してもらえればと思います。

役場の通信速度が遅いという話を聞いておりますが、やはりまずは環境を整えることが大事だと思います。

教育課長 実際には、持ち帰っての学習がどのくらいできるのかがまだつかめていない状況です。通信会社もいろいろありますが、こういった設定の契約の仕方があるのかということもありますし、家に持ち帰ってどのくらいの時間を学習させるかということも煮詰まっておりません。具体的にこのくらいのことをしたいという学校の計画を基に、各業者の料金設定を整理しながら試算して村で予算化し、計画を進めたいと思います。そういった状況になった段階で、改めて報告をさせてい

ただきたいと思います。

教育長 本日、午前中の校長会でそういう指示を出したところです。

ただ、4、5件であれば、すぐにでも対応は可能だと思います。

あとは、たびたび話題になるリモート授業ですが、これについては、さらにデータ容量が多くなるので、まだ検討中です。

星委員 先日の授業参観のときに、校長先生とお話する機会があったので、ITについて話しをしましたが、メディアコントロールを含め、今、学校側でやっていることに対し、いい意見もあれば悪い意見もあり、なかなか難しいということをお話しされていました。

実際、メディアコントロールまで含めて、ICTについて学校で進めようとしたときに、どれだけ反対する親がいるのかについても疑問なところがあります。例えばメディア制限という形で、子どもと一緒に親も取組みをしており、親もメディアの時間を減らすということを行っており、そういう制限についてはきっと嫌だという保護者の方もいると思うんですけども、教育ということで、使い方とかいろいろなことを教えていくということに対しては、あまり反対の方はいないんじゃないかと思います。

コロナによって見直されてきたリモートという手段や、ICT化など、いろいろなことがあり、難しいのだろうとは思いますが、せっかくICT学習について先進的な学校から来られた先生がいるのですから、そういった方の意見ももらい、総合的な取組みを行っていただければいいのになという思いがあります。どうしても、ネットをつなぐ、リモートをやるという手段だけで、本来目的であるはずの教育とのずれが出てしまうということがあると思います。

こういったことは、学校でやれば良い教育になるのだと思います。学校が、コロナでできなくなったので、リモートという手段を使いますよといえ、インターネットが普及してきて、子どもたちが絶対に触れないという環境ではなくなったので、これから、子どもたちをどう守るか、どう教えていくかという、そういうテーマでのICTの講義などを統括してやっていくことができればと思います。

ICTや、メディアコントロールなど、それぞれの課題を検討してきたことについて、うまくつなげていくことが、学校だけでできるのか教育委員会も入るべきかも少しわからないんですが、そういうところをテーマに話ができればいいなと感じております。

教育長 ありがとうございます。とにかく当然使える方向で学校で検討してもらいますし、我々も先行して進めていきたいと思っています。

調査結果については、『つながらない』が、4、5人いるわけですが、だからといって全くできないという方向ではなくて、何とかできるようにするというのが我々の仕事だと思っていますので、そこはしっかりと対応していきたいと思っています。ありがとうございます。

ICT化についてのアンケート結果についてはよろしいですか。（「はい」の声あり）

それでは、続いて教育委員・教育長研修会についてですが、これについてはご

理解いただくということですが、皆さん現段階では出席されるということによろしいですか。（「はい」の声あり）

ぜひ、貴重な機会ですのでお願いいたしますし、その後会場を移しまして定例教育委員会が予定されておりますので、出席のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

それでは日程第5、諸報告について、終わります。

12 その他

教育長 最後、日程第6、その他ですが、次回の教育委員会の開催日時についての確認と、9月の開催日時の決定をお願いしたいと思います。

教育課長 次回の教育委員会の開催については、8月27日木曜日12時に福島テルサのほうで研修会が終わるという予定でありますので、移動していただいて、昼食会を行い、その後引き続き会議を開催していきたいということによろしくお願ひします。

次々回の教育委員会の開催について、9月になりますが、この日程を決めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

教育長 それでは、9月の定例教育委員会ですが、28日の月曜日でよろしいですか。（「はい」の声あり）

それでは、9月の定例教育委員会は、9月28日月曜日15時からということにいたします。場所は役場内の会場としたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、以上日程第6まで終わりましたので、課長にお返しします。

教育課長 ありがとうございます。

全体的に何かお話ししておくことがあればお願いしたいと思います。

星委員 現在、第6次総合振興計画の策定委員をやらせていただいております。教育分野について書いてあったのですが、柱の一つに、『竹のようにしなやかに、石のようにどっしりと、自らに誇りを持つ教育』ということが書いてあり、今の教育目標より二言ぐらい増えていました。この言葉がどこから来たのか聞きましたら、専門部会（教育・文化部会）の中で出てきた言葉だという話でした。

策定委員会の中でもいろいろ議論したんですが、一つ心配だったのは、村の教育の柱を作るにあたっての、教育委員会との関係性をどの様に考えれば良いのかということです。教育委員会部局からの職員がメンバーとして入っているということは分かるんですけども、関係機関の中でどのぐらいやりとりされているのかということと、村の教育の柱として位置づけられたときに、頭がどこに来てどの様に共有され、活かされていくのか、よく分かりませんでした。学校は学校の中に教育方針とか目標とかいろいろあると思うんですけども、村の教育に関する体系的なものというのが少しわからなくなっていました。村の振興計画があり、教育委員会の方針や狙いがありなど、その辺がどういう位置付けでつながっているのか、何かそれぞれになっているんじゃないかという心配がありましたので、分かる範囲で教えていただきたいと思います。

また、策定委員会のときに質問させていただいたんですが、取組事項の中で、いろいろ新しいことをやると書いてありましたが、学力向上という言葉が入っていないという質問を出させていただきました。専門家の方が話をされて、それは

あえて言わなくても、もちろん入っているということでした。例として、秋田の東成瀬と別の地域の2つのお話をしていただきました。秋田のほうは学力は高いけれども、結局学力が高いがゆえにそこにその子どもたちが残らなくて、人がいなくなってしまうという現状があるということ。もう一つのほうは、学力がどうこうではなくて、やっぱり地元に残って、地元が活性化しているという話であり、地元の活性化をはかるために、ふるさと教育とか生き方とかそういったことが大事なんだという話をされました。

それはそれで理想としてあるんですが、進路という話になったときに、一保護者としてはやはり学力というのが、現実問題として直面しますので、という話を出させてもらい、それはそうですねと話をまとめていただきました。幼稚園のPTA会長をやらせてもらい、学校運営協議会にも出させていただいてきたんですが、評価基準というのが非常に難しかった覚えがあります。教育がうまくいっているかないかという評価をどこで持つのかというのは、片方の数字に頼りすぎると、そこにだけ注視してしまって他のところがおろそかになるということで非常に難しいと思いました。教育は、1年、2年ではなくて10年、20年先までということで、非常に難しい部分があると思うんですが、ただやはり何らかの数字なり評価方法というのが柱としてあって、それに合わせていろいろな方針とか計画とかが出てくるものではないかと感じています。

話を続けて申し訳ありませんが、子どもの授業参観に行ったときに、1学期のテスト結果だというのを戻されました。レーダーチャートでクラスの平均点と各子どもの平均点が出されたものです。100点満点で、平均点が大体50点でした。先生に50点という点数はどうなんですかと質問したときに、ほかの学校と比べるとは難しいとのことでした。ただ、理解度的な意味合いだとすると、少なくとも1学期については、今の7年生は学校の授業の50%程度は理解しているという捉え方であるとのことでした。それがいいのか悪いのかというところがあるとは思いますが、先生方も8割程度が目標だと話しておられました。テストはどういう問題を出すかによって変わるので難しいんですが、全体的な理解度が、100に対して80という目標があるのであれば、その80に対してどの程度なのか、それをどうしていくかというのが、やはり本来必要なんじゃないかと感じています。

教育方針などを出す上では、やはり学力向上を柱にするということも一つの大事な点であり、それがどの程度できているのかを客観的に見ることを継続的に続けていくことが必要であり、村の教育が、今後5年、10年過ぎていったときにどう変わってきたかを見る上で大事なんじゃないかという意見を言わせていただきました。

第6次総合振興計画の中で、村の教育がどういうふうな位置付けで、頭が何で、どういうふうに計画が決まっていくのか、またそれを進めていくに当たっては、学力という一つの柱で、それを定量的に評価できる方法や、継続的に評価できる方法というのはやはり必要なのではないかということを感じたので、そういった質問をさせていただきます。

教育長 体系的なことについては、まず、村の第6次総合振興計画というものが一番頭に来ます。当然それは村長の意向が反映されて作る諮問機関です。そして、次に

今の教育委員会制度により、それに沿った村長の教育大綱というのが作られ、教育委員会に下りてきて、県の方針なり相双教育事務所の方針なりも加味して、今度は具体的に学校に下ろすための学校教育指導の重点を作成し学校に伝えます。学校のほうでは実態を考え、校長の意思も反映されたもので、さらに作り込んだものがいわゆる教育課程ということになるので、その大元になるのが今携わっていただいている6次総ということになります。非常に重要な位置付けとなります。

ただ、どこまでそこに盛り込むのかというのはなかなか難しいだろうと思っています。つまり評価の部分の尺度まで載せることなどは難しいと思うんです。それは教育委員会に限らずです。

ただ、おっしゃるとおり、まず教育の一番の目的というのは、子どもの自己実現です。夢や希望を実現させるということをお手伝いする、可能性を伸ばすのが我々の仕事であって、当然そこには自己実現のために何が一番必要なのかと言うことになりますが、学力というのが当然大きな柱になります。学力向上なくして自己実現というのは、なかなか現実的には難しいです。やはり学力というのは相変わらず、今も昔も大切であることは間違いありません。ただ、それを測る尺度がないというのは問題です。

学校では、いわゆる標準化された学力検査、標準学力検査というものが毎年あり、全国水準と比較し、その推移を見てやっています。そのほか、今年は中止になりましたが全国学力調査、あるいは県の学力テストなど、そういった客観性を持たせたものの推移を見て測るといったこと、それは現在行っています。それから学校評価です、これは学力でないものも入りますが。そういったことで、やはり客観的な第三者の目から見た評価というのも必要ですし、そういったものを総合して評価をしているというのが実態です。

少し怖いのは、それでは、その数値だけ見ていいのかという問題です。例えば私が学校にいつも話しているのは、期待される学力というものについてです。当然それよりも上になっていけば、それはたとえ40であろうが30であろうが、自分たちが期待されるものより上であれば、これは立派にみんな頑張っている訳です。もちろんそれだけでいいというわけではないですけども、そういった見方もいろいろあるのでなかなか難しいということです。

星委員 数値化すると、数値の捉え方はいろいろあるので難しいと思います。

例えば、今年の1年生と来年の1年生の基礎学力を見たとき、個人差がありますので評価するのは非常に難しいことです。しかし、やはり何らかの継続的な評価基準が必要であり、例えば子どもたちの学力じゃなくても、先生とか学校の教育のレベルとか教育力というようなものでもいいんですけども、結果として良くなっているのか悪くなっているのかということが分かる仕組みづくりが必要で、このままでいいのか、何か変えなければならないのだろうかという判断ができる様にしなければならないと思うんです。

私は子どもの頃、家庭学習をほとんどやっていなかったもので、そういう家庭と、家庭学習をやるのが当たり前という家庭があった場合、そこは大きな差になってくるということを改めて思ったわけですが、そういったことを踏まえて話をさせていただきます。

進路の話をしたときに、福島市に住んでいれば友達同士でも進路をどうするかという話は出てくると思うんです。自分は友達と同じところを選んだという経緯があります。子どもたちに進路を選ばせるときに、やはり子どもたちが進路をどういうふうを選ぶかというところが実際難しいんじゃないかと思っておりまして、では、選びたい学校はどこかといったときに、そこで結局学力や偏差値の話が出てくると思うんです。

授業参観のときに、9年生のブースの前に高校案内のパンフレットがあったんですが、特に何も書いてなく、ただ置いてあるだけでした。福島や伊達地方に住んでいれば、子どもたちの間でも、どういう学校があり、どういうところに行きたいのかという情報は比較的分かるのだろうと想像できるんですが、ここにおいてそれを想像するのは難しいです。本来自分で調べて行きたいところを見つけるとするのが大事なんだろうが、やはり学校側として、ここはこのぐらいのレベルだから学力をこのぐらいまで上げなければならない、などということをもう少し分かりやすく伝えていただきたいと思います。

というのは、7年生の平均が50点だったときに、自分の子どもの点数がそれより少し高かった場合、そこだけを見ると、自分の子どもは平均よりいいから大丈夫だと思ってしまう可能性があります。そうではなく、やはり高校進学を目指すには、ほかの地域を含めた全体での比較になりますので、ほかとの比喩はできないのでしょうかという話をしたんですが、先生からは、具体的にどこを目指すかを決めてくださいと言われました。しかし、中々そこまではできなかったんです。

先生としては子どもたちが行きたいというところ、それに向けて指導していくということだと思んですが、その前の段階で、子どもでは少し判断できないといった状況があります。ですので、どこの高校がいいとか、その学力がどうか、自分の学力であればどうかということが意識できていないといった状態です。一番上の子のときには、中3になって意識しはじめたということで、少し手遅れだったこともあり、やはり学力については、進路を決めるときに何らかの数字というものは、常に子どもたちに意識させていたほうが、学習に対する意欲も高まり、自己実現にもつながるんじゃないかと思っています。

教育長 福島市の子どもも正直、中1、2年生はまだ実感はないと思います。3年生になってからというのがほとんどです。ただ、当然おっしゃったとおり、そういう話題にもなりますし、あるいは塾などでも、そういう情報は少なからず入ってくるんです。震災によって、川俣に避難したとき、私がちょうど飯舘中の校長になりまして、そのときに受験地域が全く変わってしまい、どうしようかということになったときに、やはり県北の学校の情報や受験の情報を子どもたちにも提供しましたし、指導しました。おそらくそれが今も生きていると思っています。

そもそも進路指導とていうのは、3年生の受験の指導が始まりではもともとなくて、当然1年生、今の7年生、そこからやはり始まっていかなければならない訳です。段階を踏んで、まず最初に自分がなりたい職業、仕事ですね。当然暫定的なものでもいいんですけれども、そのためにどの資格が必要なのか考えるわけですね。そして、そのためにはどの高校を出てと、そういう指導はしているはずなんです。

星委員 確かに私の一番上の子は、9年生（中3）なんですけれども、中1のときからどういう職業に就きたいかというアンケートがありました。どういう学校に行きたいかなども。でも、それでもわからなかったんです。

教育長 学校では、進路指導の中で、そういう専門の本や、高等学校便覧を提供しています。そういったものから自分で調べて進路を決めることになっています。ですから、基本的には自分で調べて決めていますし、また、学校に高校の先生を直接お呼びして、高校説明会を行っていますので、全くわからないということはないと思います。

ただ、実感としてよく分からないというのは、それは事実だと思います。ですから、そこは先生方が、3者相談などで希望を聞き、希望校に進学するためには苦手な数学を少し点数上げなければいけないなど、そういう指導をしているはずですよ。

星委員 中1のときに思っていた将来の職業と中3になって思う職業は、変わる事がほとんどで、それもそんなに固着してはいないのが実態で、結局親としては、将来の選択肢を増やすためには学力は高い方がいいという結果になるんです。でも、そんなに理想を言っても現実と差が出てくるので、そのときにやはり中1の段階である程度学校のレベルがどの高さにあり、今の自分がどのぐらいのレベルで、3年生までにここを目指すにはどのくらい頑張る必要があるのかなど、そういうところを分かりやすく指導していただけないかと思うのです。

例えば10段階のうち今5段階にいて、福島高校だと1段階ちょっと上がらないと無理で、そのためにはこういう学習をしていかないと駄目だというような指導です。進路を決めてからではなく、ある程度早い段階で、ここを目指すならこのぐらいやらなければならないという指導をしていただきたいと思います。一番上の子が3年になって、はじめてこんなに学力が低かったのかと改めて感じたので、中1の段階から、情報に対して今自分がどの位置かっているのを、子どもたちが自分で意識できるようにしてもいいのではないかと思います。

教育長 20年ぐらい前はそうにしていたんですが、偏差値で進路指導するのはどうなのか、あるいは偏差値で高校を語るのはどうなのかという問題もあってから、あまりその数字だけを使って指導はしないようにはなっています。

ただ、先生方もそれぞれ経験があるので、自分が作った定期テストでこれぐらい取れば、福島市内の進学校については、感覚としてはもちろん分かりますので、そういうアドバイスを当然していますし、例えば偏差値が55だからあと2延ばせと言ってもわからないので、やはりその辺は、苦手なところを勉強して、あと何点ぐらいとか、そういう具体的な指導をしているとは思いますが。

星委員 例えば自分が10段階の5を目指すのに対し、6行っていれば目標に対し比較的頑張っているほうだという見方ができますが、学校としてはもう少し自分の実力より上を目指しましょうという話をすると思いますが、そういう意味ではその数字と能力はどうしても切り離せないのかなというところがあります。

また、親としては、自分の子どもが十分頑張っていると思えば、そのほうが安心できると思います。

教育長 学校としては、こっちは高校のほうが上位だという表現はしてはいけないし、

難しいんですが、例えば具体的に言えば、250点満点で200点取れば全ての高校から自分の高校を選べるのですが、やはり100点では選ぶことができないといった話をすればやる気を高めることにもなり、その結果、点数が上がれば、可能性が高まることにもなりますから、そういう話はしていかなければならないとは思いますが。

進路指導に関しては、校長会がありますので、その場で、今の話も含めて指示を出したいと思っています。そういう意見はどんどん聞かせていただければありがたいです。

菅野委員 少し意見を言わせていただきます。

飯舘の子どもたちをどういうふうに育てたいのかということは、先ほどだされたように大綱があり、今一所懸命6次総の中でも検討されているということで、しっかりしたものがつくられるのだと思います。そこで一つ、学力がつけば村から出ていくということが心配される面があります。学力のつかない子たちばかりが残ってもいいのかということです。ここから出ていかないことがいいのかっていうとそうでもないとは思いますが。

私自身、2人の子どもを育てながら、また職業柄いろいろなお子さんたちや大人たちを見ながら考えることがありました。一つ思うのが、星委員の話を伺っていて、特に子どもが何をしたいのかというのは親がしっかりと見てあげるべきということです。ですから、点数、数字に捉われるのではなく、この子は何に向いているのかをよく見てあげることが大切なんだろうと思います。親は、良く見ているようで見ていなかったりするものですから。

朝ドラの「エール」で、吃音で、みんなからいじめられて、自信がなかったあの古関裕而が、たまたま担任した先生の一言によって彼をあそこまで成長させたというのは、私は過言ではないと思います。それは何かと言えば、ほんの少し努力をすればできることがあり、楽しければ、それが君にできること、向いていることなんだよという一言により、彼が音楽に向って進むことが出来たということです。

子どものそういうところを親が意識して見つけていくこと、大人たちが子どもたちを見ていくという地域の力があり、親の力があるということがこの村にあれば、一旦村を出ても帰って来られる土地柄に、私はなるんだと思います。そういう意味でのふるさと学習というのもありなんだと思うんです。

地域の大人たちや親が、子どもが何に興味があるのかといったことを見つけ、好奇心と創造性を子どもたちにしっかり持たせれば、あとは自分の力でやって行ける、好きなことを見つけなさいと送り出すことが出来る。私自身はそういうつもりで来ました。飯舘では学力がつかない、それが心配だよね。進路が心配だよね。本当に飯舘に住むのって言われました。でも、同じ公立学校で同じように先生方が採用されていたとすれば、あとは本人次第ですから。私は子どもたちに対し、常に何になりたいのかを問い質してきました。ですから、中学校1年時の進路指導でも、希望の高校の話が出てきたときに、その前にあなたは何をやりたいの、だったらどの学校に行きたいの、それだったらそこがいいと思う。という話を一緒に考えてきました。ですから、最終的に親と子の、そういう会話ができ

たらいいんだろうと思っています。最終的には、やはり地域が子どもたちを育てていくんだと私は思っています。

そういったことで、今後の教育委員会においては、そういったことをしっかりと定義付けしていけたらいいんだろうと私は思っています。

教育長 一つ気になったのは、学力がつけば戻ってこないというのは違うと思うんです。私はしっかり学んで村のために戻ってくる子どものほうが広い意味では学力があると思っています。学力がつくと戻らないというのは、村づくりの問題だろうし、大人の問題、そういうことになるんじゃないでしょうか。ですから、飯舘がそうならないように、ふるさと学習も含め、魅力的な村づくりをすれば当然戻ってくるので、優秀だから戻ってこないというのは少し言い過ぎかと思います。

また、授業においては、あれだけ少人数で丁寧な指導をしている学校はありません。私の経験では、30人、40人をいつも見て回っているのが常であり、本校の状況を見れば、親にとってはあんなにありがたい学校はないはずです。ですから、あれで学力が心配だと言う人はいないと思います。実際に授業の様子を見ればです。やる気さえあれば、当然こっちのほうが環境としては抜群にいいわけです。ぜひ心配をしている人にはそう言っていただきたいと思います。

星委員 ただ、授業参観はさみしかったです。2年生のクラスは2人で授業参観を受けていて、やはり2人じゃさみしいというのを感じました。校長先生も、複式も考えなければいけないのかなという話をしておりました。

やはり授業参観を見て思ったのは、飯舘村の学校に通う子どもを増やすということを真剣に考えなければならないということです。丁寧に教えているという言い方もあるかもしれないですけども、授業を見ていても2人というのはやはり寂しいです。

教育長 分かります。

実は、校長も複式が悪ではないと言っていました。つまり、もっと大人数でやることも、当然プラスの面も大きくあります。何か複式だと駄目みたいな感じに思われがちですが、子どもたちにとってはそれもいいですし、あとはおっしゃるとおり、根本的に、村に子どもたちを増やすという方法は、大変なことではあるんですが、やはり6次総なり大綱なりで示すのも一つの手だとは思いますが。

ぜひその辺も揉んでいただければと思います。ありがとうございます。

教育課長 では、ほかに何かございますか。

菅野委員 先月、ブラザーズドッグの絵本の話と、その本を寄付したというマジシャンの話をしたんですが、実はその本人と会いまして、彼の生きざまの話を伺っていて、ぜひ飯舘に来ていただいて、話を聞く機会をつくれなにかと思いました。

家庭内暴力、身内からの虐待を受け、学校ではいじめを受け、そういう中で育ってきた彼は、不登校や家出を経験し、そういう中でも立ち直ることが出来た、それはなぜなんだろうと言ったときに、最終的に親がいたからだということでした。そういう話を親子で聞ける機会があればいいなと、実際彼と話をしていたと思いました。

また近々、話をする機会があるので、情報が入ったらお知らせします。

教育課長 ありがとうございます。

そのほか、何かございますか。（何もし）

13 閉 会

教育課長 それでは、以上で7月定例飯館村教育委員会を終了とさせていただきます。

終了時間は16時10分。午後4時10分閉会とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

午後4時10分 閉会

上記のとおり相違ありません。

教育長

遠藤 哲

教育委員（教育長職務代理者）

佐藤 真弘

教育委員

菅野 7 二

教育委員

星 弘幸

教育委員

庄司 智美

書記：教育課長 佐藤 正幸